

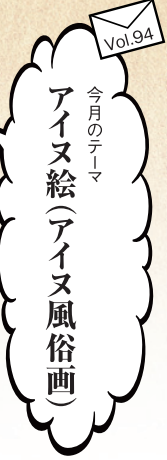


アイヌ絵の中にもお正月をテーマにしたものがある。「蝦夷風俗十二ヶ月屏風」中の「正月年礼之図」。紙垂や松葉などを吊るしたしめ縄が飾られた鳥居をくぐる工カシ(お爺さん)やフッチ(お婆さん)等五人のアイヌが描かれています。女性が切餅のような白いものを布に包み両手で抱える様子やフッチは莫座こざに包んだ荷を背負い、手には酒徳利のような器にタバコの葉を持っている様子などが描かれています。鳥居に

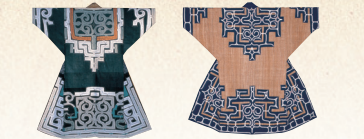


村木美幸
(アイヌ民族文化財団
常勤理事)

令和、最初のお正月、明けましておめでとーいさいます。



Vol.94
今月のテーマ
アイヌ絵(アイヌ風俗画)

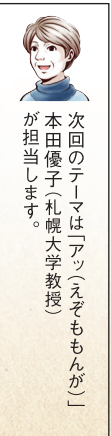


アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、
その魅力を交代で執筆する
ソニコ(=お便り)形式のエッセイです。



イラスト/ 莊田悠人

餅や酒、絵の題名から、初詣を写した?それとも、ウイマム(交易を伴う挨拶儀礼)の帰りを写した絵でたまたま鳥居をくぐった?など想像が膨らみますよね。どちらにしてもこの絵が描かれた時代の函館という地域性から生まれた作品です。
この絵の作者である平澤屏山ひらさわびんざんは幕末から明治初頭にかけて函館で活躍をした絵師で、日高や十勝で実際にアイヌと共に暮らしその姿を描いたとされるだけあって人物や背景、用具に至るまで写実的であり優れた作品としてイギリスの大英博物館を始め国内外で確認することができます。他にも松前で活躍したアイヌ絵師の先駆けとされ



次回のテーマは「アツ(えぞももんが)」
本田優子(札幌大学教授)
が担当します。

る小玉貞良、アイヌ絵に興味のあるものなら誰もが知る「蝦夷島寄観」を描いた村上島之允むらかみしまのじゆう、フランスのプザンソン美術館に収蔵される「東酋列像」を描いた松前藩の家老、蠣崎波響等の作品群があります。また、それらの絵師の作品の模写も多く存在します。
かつて、アイヌは絵を描くことはしませんでした。アイヌ絵やアイヌ風俗画、蝦夷絵等と呼ばれる、いわゆるアイヌの風俗を描いた絵はアイヌ自らが描いたものでなく、アイヌを取り巻く人々によって描かれたものです。アイヌ絵が積極的に描かれた時代、絵は視覚的に情報を伝える媒体でもあり、描き手や描かせる側の意図によって好意的なものにも悪意に満ちたものにもなり、様々に情報を左右する力がありました。それらを踏まえ、歴史性や地域性を加味してアイヌ絵を観ることで、それらの作品はアイヌの民族誌研究はもとより、アイヌ文化のより深い理解のための重要な資料となります。アイヌ絵の見方が変わりますね。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間
北海道白老町に2020.4.24 OPEN



- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうだゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。